

『世界に於ける仏教徒』 難解文字簡易解説

序 文

見色明心(けんしきみょうしん) 古人は自然の音を聞いて世界の真実を悟り、眼 に入った色を見てわが心がどういうものかを明らかにしたのである。これをみて分かるように、あらゆるところに仏法への門が開かれているのである。

聞聲悟道(もんしょうごどう) 声を聞いて道を語る。

果報(かほう) 仏教用語。異熟とも訳す。以前に行なった行為によって、のちに報いとして受ける結果をいう。人間として生れたことを総報、男女、貧富などの差別を受ける果を別報という。またこの世で行なった行為が、この世で報いとなることを現報、次の世に結果が現れることを生報、未来世以後に受けるものを後報という。

昧(あじわい) 物事のもつ深みのこと。

願行(ごんぎょう) 仏語。誓願と修行。誓いを立て、それに応じた修行に努めること。

三世十方(さんぜじっぼう) 仏語。三世と十方。無限の時間と無限の空間。

塵々刹々(じんじんせつせつ) 菩薩願行文(ぼさつがんぎょうもん) 弟子某申(それがし)謹んで諸法の実相を観ずるに皆是れ如来真実の妙相にして塵々刹々、一々不思議の光明にあらずということなし。

無辺無尽(むへんむじん) 広大で果てしないこと。

世界海(せかいかい) ブッダの説法が一味であるのは、私たちが本来は一味の世界を生きているからなのである。仏典には、どれほど味の違う河の水であっても海に入れば一味となる、という例えである。

忽然(こつぜん) 物事の出現・消失が急なさま。忽如(こつじょ)。こつねん。「忽然として消えうせる」にわかに。突然。

芥子(からし、かいし、がいし、けし) からし。香辛料のからし。

鼻頭(はながしら) 鼻の先。鼻の頭。

舌端(ぜったん) 舌の先。舌頭。口先の言葉。弁舌。舌頭。

藹々居士(あいあいこじ) 大内青巒の別号。

大内青巒(おおうち せいらん) 弘化2年4月17日(1845年5月22日) - 大正7年(1918年)12月16日は、明治期から大正期における仏教学者・思想家。父は仙台藩士大内権右衛門。名は退(まかる)。字は巻之。別号を藹々居士。陸奥国(後の陸前国)仙台出身。

諸 言

他人(あだびと) 他の人。他人。あだしびと。

勸告(かんこく) 一定の事項について、相手方に一定の措置をとることをすすめ、または促す行為。

識(しき) 仏教用語。外界の対象を識別し、認識する心の作用をいう。あるいは心を作用という面から名づけて識という。「了別」の意味の仏教用語である。認識対象を区別して知覚する精神作用を言う。

唯識(ゆいしき) 個人、個人にとってのあらゆる諸存在が、ただ、八種類の識によって成り立っているという大乘仏教の見解の一つである(瑜伽行唯識学派)。八種類の識とは、五種の感覚(視覚、聴覚、

嗅覚、味覚、触覚）、意識、2層の無意識を指す。これら八種の識は総体として、ある個人の広範な表象、認識行為を内含し、あらゆる意識状態やそれらと相互に影響を与え合うその個人の無意識の領域をも内含する。あらゆる諸存在が個人的に構想された識でしかないのならば、それら諸存在は主観的な存在であり客観的な存在ではない。それら諸存在は無常であり、時には生滅を繰り返して最終的に過去に消えてしまうであろう。即ち、それら諸存在は「空」であり、実体のないものである（諸法空相）。このように、唯識は大乘仏教の空（仏教）の思想を基礎に置いている。

第一章 宗教の大革新

方今（ほうこん） まさに今。ただ今。また、このごろ。現今。副詞的にも用いる。

宇内（うだい） 天下、世界。

無神論（むしんろん） 世界観の説明に神の存在、意思の介在などが存在しない、または不要と主張する考え方である。

汎神論（はんしんろん） 全ての物体や概念・法則が神の顕現であり神性を持つ、あるいは神そのものであるとする世界観・哲学。万有神論。

理学（りがく） 明治時代、日本に諸外国の学問が流入するようになると、それらの学問の呼称を日本語でどう表記・呼称するか工夫、試行錯誤が行われた。philosophy の訳語として「理学」が用いられた。

ドレーパー氏 メソジスト派のアメリカ人の宣教師、中田重治にバプテスマを授けた人物。ギデオン・フランク・ドレッパー（Gideon Frank Draper）。G・F・ドレーパーとも表記。日本の盲人教育の歴史上重要な人物。

十字軍（じゅうじぐん） 中世に西ヨーロッパのキリスト教、主にカトリック教会の諸国が、聖地エルサレムをイスラム教諸国から奪還することを目的に派遣した遠征軍のことである。

三十年戦争（さんじゅうねんせんそう） 三十年戦争は名前の通り 30 年間絶え間なく続いたのではなく、数ヶ月から 2 年程度の小康状態を挟んで断続的に続いた。当時はほとんどの軍が長期間統制しにくい傭兵によって賄われており、国王直属の常設軍隊は稀であったからである。また、長期の戦争を継続することは国家財政を圧迫するため、息切れするかのように戦争が中断されることになった。しかし、戦争が長引くとインターバルの期間は次第に短くなり、三十年戦争の最終段階では 13 年間にもわたる戦闘が繰り返された。

レラニレビ氏 統計学者。

駁撃（ばくげき） 他人の言論・所説を非難・攻撃すること。

比較宗教学 宗教学の分野で神話、儀式、概念の類似点と相違点を相対的に比較しようとする。比較宗教学の観点では世界宗教をアブラハムの宗教、インド宗教（Dharmic、en:Indian religions も参照）、東アジア宗教（Taoic、en:East Asian religions も参照）の三つに分類し、他の分野も比較する。

日耳曼国（げるまん） ゲルマン語派に属する民族。バルト海沿岸を原住地とし、北部ヨーロッパ一帯に部族国家を築き、農耕牧畜に従事した。民族大移動期には各地で王国を建設した。

妾（めかけ、しょう） 婚姻した男性が、妻以外にも囲う女性のことで、経済的援助を伴う愛人を指す。

呂宋島（るそんとう） フィリピン諸島のうちで最も面積 の大きな島。面積はおよそ 10 万 4688km²。
フィリピンの総面積の 35%を占め、世界で 17 番目に大きな島であり、世界で 4 番目に人口が多い島でもある...

ラッセル・ウエップ氏 「一統宗教を論ず」の著者。

探究（たんきゅう） 物事の意義・本質などをさぐって見きわめようとする事。

尊崇（そんすう） 尊びあがめること。尊敬。

英京倫敦（ろンドン） イングランドの首都で最大の都市。

景況（けいきょう） 時とともに移り変わってゆく、その場のありさま。

耶蘇教（やそきょう） キリスト教。

オルコット氏 ヘンリー・スティール・オルコット（Henry Steel Olcott）- アメリカの神智学者（1832 -1907）。神智学協会の創立者・初代会長。

獨乙（どいつ） ヨーロッパ中部にある連邦共和国。首都ベルリン。古代のゲルマニア。中世には神聖ローマ帝国の中心をなしたが、封建諸侯の割拠が長く続いた。1871 年、プロイセンを盟主として統一国家が成立し、ドイツ帝国となる

愛蘭土（あいるらんど） 北大西洋のアイランド島に存在する立憲共和制国家である。北東に英国の北アイランドと接する。首都はアイランド島中東部の都市ダブリン。ナショナルカラーは緑。

シュッペンハウエル氏 ドイツの哲学者。主著は『意志と表象としての世界』仏教精神そのものといえる思想と、インド哲学の精髓を明晰に語り尽くした思想家^[2]であり、その哲学は多くの哲学者、芸術家、作家に重要な影響を与え、生の哲学、実存主義の先駆と見ることもできる。フリードリヒ・ニーチェへの影響は有名であるが、その他にもリヒャルト・ワーグナー、ルートヴィヒ・ウィットゲンシュタイン、エルヴィン・シュレーディンガー、アルベルト・アインシュタイン、ジークムント・フロイト、オットー・ランク、カール・グスタフ・ユング、ジョーゼフ・キャンベル、レフ・トルストイ、トーマス・マン、ホルヘ・ルイス・ボルヘスなど様々な学者、思想家、文筆家に影響を与え、その哲学は現代思想においても受け継がれている。

道理（どおり） 物事の正しいすじみち。また、人として行うべき正しい道。ことわり。すじが通っていること。正論であること。また、そのさま。

フライデレル氏 『基督教の真相』の著者。

エドウィンアーノルド氏 イギリス出身の新聞記者（探訪記者）、紀行文作家、随筆家、東洋学者、日本研究家、仏教学者、詩人。イギリス領インド帝国成立時にナイト爵（KCIE・CSI）に叙される。ヴィクトリア朝における最高の仏教研究者・東洋学者とされる。『デイリー・テレグラフ』紙編集長、インド国立サンスクリット大学（現・デカン大学）学長、慶應義塾（現・慶應義塾大学）客員講師、スリランカの仏教指導者・Anagarika Dharmapala（ダルマパーラ）と共に Bodhi Society を創立した。

亜細亜の光（あじあのひかり） 釈尊の伝記。釈迦の生涯と故えを説く長編無韻詩。

ユニテリアン教 キリスト教で伝統的に用いられてきた三位一体（父と子と聖霊）の教理を否定し、神の唯一性を強調する主義の総称をいう。歴史的には、ユニテリアンはイエス・キリストを宗教指導者としては認めつつも、その神としての超越性は否定する。

惟一真神（ゆいつしんしん） 世界各地で自然発生して発展した宗教は元来は多神教が多い。しかし現在では唯一神を教義としている宗教の信者が非常に多く、それらの宗教の信者数を総計すると世界人口の半数以上を占める。これは、唯一神 Y・H・V・H・ を崇めるユダヤ教から派生した、キリスト教やイスラム教などのいわゆる「アブラハムの宗教」とされる宗教が非常にメジャーになっており、多くの信者を得ていることが主な理由である。

第2章 新仏教徒

拱手（こうしゅ） 中国の敬礼で、両手の指を胸の前で組み合わせておじぎをすること。手をつかねて何もしないでいること。

安臥（あなが） からだを横たえて楽にすること。

勃興（ぼっこう） にわかに勢力を得て盛んになること

中西牛郎（なかにしうしろう） 安政6年1月18日生まれ。同志社にまなび、明治14年神水（くわみず）義塾をひらく。米国に留学後、本願寺文学寮教頭となる。「新仏教論」で仏教改革を説き、雑誌「経世博義」を刊行し国粹主義を主張。天理教と神道扶桑教の教典をまとめた。昭和5年10月18日死去。72歳。肥後（熊本県）出身。号は蘇山。著作はほかに「宗教革命論」など。

弊習（へいしゅう） 悪いならわし。

福音（ふくいん） 喜びを伝える知らせ。よい便り。「一をもたらす」 イエス＝キリストによってもたらされた人類の救いと神の国に関する喜ばしい知らせ。また、福音書に記されているキリストの生涯と教え。

識得（しきとく） 見きわめて理解すること。

真正（しんせい） 真実で正しいこと。本物であること。

檀越（だんおつ） 《(梵)dāna-pati の音写。施主の意》寺や僧に布施をする信者。檀那。檀家。だんおち。

教導（きょうどう） 学問的な理念や宗教思想などに基づいて、教えみちびくこと。

暹羅（しゃむろ） インドシナ半島中部にあるタイ王国の前名シャムにあてた漢字。

緬甸（びるま） ミャンマーの旧称。

安南（あんなん） ベトナム中部地方。また、この地に建てられたベトナム人国家の称。唐代に安南都護府が置かれて以来の呼称。

仏陀伽耶（ぶったがや） インド北東部、ビハール州の古都ガヤの南方にある仏教の聖地。釈迦（しゃか）が悟りを開いた地とされ、紀元前 3 世紀頃にアショカ王が建立した寺院を起源とするマハーボディ寺院（大菩提寺）がある。ボードガヤー。

弥満（みまん） ゆきわたり、満ちること。

識見（しっけん） 物事を正しく見分ける力。また、優れた意見。見識。しっけん

脳裡（のうり） 頭の中。心の中。

一挙手一投足（いっきょしゅいつとうそく） 一度手を挙げ、一度足を踏み出すという意。

一致契合（いっちげいごう） 意味がぴったり合うこと。

梅怛梨耶（ばいたりや） 弥陀菩薩のこと。

群萌（ぐんほう） あらゆる人々。衆生のこと

命脉（めいみやく） 重要な要（かなめ）。

汝（なんじ） 相手を指す言葉。貴方とかお前というのと同じで、古い言葉。

對陣（たいじん） 相手と向かい合って陣をとること。

妄夢（もうむ） 睡眠中に道理がわからない夢を見ること。筋道がなく、でたらめな夢。「睡眠中に多くの夢を見すぎて不調に なることを、東洋医学では「多夢」という。

端緒（たんしょ） 「たんちょ」とも読む。物事の始まり。いとぐち。手がかり。

存覚上人（ぞんかくしょうにん） 鎌倉時代後期から南北朝 時代にかけての浄土真宗の僧である。

六趣四生（ろくしゅししょう） 「六趣四生」の六趣は六道のこと。「六趣」の趣はそれぞれの業報によって趣き、住む処という意味で、「四生」は、この世に生きとし生けるあらゆる生物をその生まれ方の上から、胎生・卵生・湿生・化生の四つに分類したものです。

禽獸蟲魚（きんじゅうちゅうぎょ） 人間以外の動物をさす。

光澤（こうたく） 仏語。仏の光明のめぐみ。

策略（さくりやく） 自分の目的を達成するために相手をおとし入れるはかりごと。計略。

第 3 章 宗教上の仏教

偏頗心（へんぱしん） かたよっていて不公平な心のこと。また、そのさま。

論究（ろんきゅう） ある物事を論じきわめること。深く十分に論じること。

ロツツエ氏 倫理学者。

ケアルド氏 宗教哲学。

モハット氏 宗教歴史。

モーリー氏 世界宗教論。

クラーク氏 十大宗教論。

アルバイテ氏 宗教思想進化論、比較宗教学、古代宗教思想などの宗教学書。

猶太教（ゆだやきょう） ユダヤ教。

埃及教（えじふときょう） エジプト教。

希臘（ぎりしゃ） ギリシャの漢字表記。

波斯（ぺるしゃ） 現在のイランを表す古名。

有神教（ゆうしんきょう） 汎神論（ハンシンロン＝全ての物体や概念・法則が神の顕現であり神性を持つ、あるいは神そのものであるとする世界観・哲学。）に基づく宗教。

厭世教（えんせいきょう） この世の中では幸福や満足を得られず、積極的な価値は認めがたいとする人生観。また、そのような人生観に基づく哲学上の宗教。

楽世教（らくせいきょう）

戒律（かいりつ） 仏教において守らなければならない道德規範や規則のことである。

天啓教（てんけいきょう） 神のお告げ(天啓)によって始められた宗教。代表的な宗教に天理教など。

自然教（しぜんきょう） 自然や宇宙に対して、謙虚に生きる。それが自然教。

顕示教（けんじきょう）

審美（しんび） 自然や美術などのもつ本当の美しさを的確に見極めること。また、美の本質・現象を研究すること。

人類学（じんるいがく） 人類に関しての総合的な学問である。生物学的特性について研究対象とする学問分野を形質人類学もしくは自然人類学と呼び、言語や社会的慣習など文化的側面について研究する学問分野を文化人類学もしくは社会人類学と呼ぶ。さらに言語学や考古学、民俗学や民族学、芸能も包括する。

社会進化学（しゃかいしんかがく） ヘーゲルやコントなどの社会の進歩についての議論をベースに、生物学において広まりつつあったさまざまな進化論をとりこんでつくられた社会理論の一種である。

第4章 哲学上の仏教

光輝（こうき） ひかりかがやくこと。かがやき。名誉。ほまれ。

玩味（がんみ） 言葉や文章などの表している意味や内容などを、よく理解して味わうこと。

哲理（てつり） 哲学上の道理。人生や世界の本質などに関する奥深い道理

一統宗教（いっとうきょう） 一つにまとめて治めること。統一。

東漸（とうぜん） 勢力が東の方へ次第に伝わり広まること。

蓮門教（れんもんきょう） 明治初期に成立した新宗教。教祖は島村みつ。法華神道系で、「事の妙法様」を信仰。御神水を用いた病気治療で、一時多くの信者を得たが、布教法が新聞で批判を受けたりして明治末には急激に衰退し、やがて消滅した。

妙法（みょうほう） 仏教において第一の最勝で不可思議なる法をいう。一般的に『法華経』を指して「妙法」という。

天輪王（てんりんおう） 開教後、中山家は没落の一途をたどったが、みきは近隣の農民、職人らに安産と病気なおしのたすけを通じて、親神〈てんりんおう〉の信仰を広めるようになった。幕末、みきは寺院、神社、山伏などの既成宗教からの圧迫を受けたが、これに対抗して神道化を進め、1867年（慶応3）神道家元の吉田家から〈天輪王明神〉として公認され、教義をよんだ数え歌《みかぐらうた》をつくった。明治維新後、教線は河内から大阪に及び、病気なおしなどによる入信者が急増して、各地で講社が育った。

スピノザ氏 [生]1632. 11. 24. アムステルダム[没]1677. 2. 20. ハーグオランダの哲学者。ポルトガル系ユダヤ人（スピノザはポルトガルの地名 Espinoza に由来し、Baruch はヘブライ語形でラテン名は Benedictus）。富裕な商人の子として生れ、1654年父の死とともに家業を継いだ。56歳で廃業し、同年旧約聖書を正統派と異なって解釈したためユダヤ教から破門され、レンズ磨きで生計を立てる孤独な思索生活に入る。

カント ドイツの哲学者、思想家。プロイセン王国出身の大学教授である。『純粹理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』の三批判書を発表し、批判哲学を提唱して、認識論における、いわゆる「コペルニクスの転回」をもたらす。フィヒテ、シェリング、そしてヘーゲルへと続くドイツ古典主義哲学（ドイツ観念論哲学）の祖とされる。後の西洋哲学全体に強い影響を及ぼし、その影響は西田幾多郎など日本の哲学者にも強く見られる。

唯心説（ゆいしんせつ） 人間社会で心、もしくは、その働きこそ至上の要因であめという存在論。

ヘーゲル 1770年8月27日 - 1831年11月14日）は、ドイツの哲学者である。ヨハン・ゴットリープ・フィヒテ、フリードリヒ・シェリングと並んで、ドイツ観念論を代表する思想家である。優れた論理性から現代の哲学研究も含め、後世にも多大な影響を与えた。観念論哲学及び弁証法的論理学における業績のほか、近代国家の理論的基礎付けなど政治哲学における業績も有名である。認識論、自然哲学、歴史哲学、美学、宗教哲学、哲学史研究に至るまで、哲学のあらゆる分野を網羅的に論じた。

因果（いんが） 原因と結果。事象を成立せしめるものと成立せしめられた事象。「因」に並んで、仏教は「縁」を立てるが、「因」が直接的な原因をさすのに対し「縁」は間接的な

動機、原因をいう。また正統バラモンの思想のなかでは、世界原因のなかにすでに結果が存在すると説くものがあり、これを因中有果（いんちゅううか）論という。

涅槃（ねはん） 仏教では究極的目標である永遠の平和、最高の喜び、安楽の世界を意味する。本来は風が炎を吹消すことを意味し、自己中心的な欲望である煩惱や執着の炎を滅した状態をさす。このような状態は「涅槃寂靜」と呼ばれて初期仏教の根本的教えの一つであったが、人が生命または肉体をもつかぎり完全な涅槃の状態は達成されないとして、これを「有余（依）涅槃」とし、死後に実現される完全な状態を「無余（依）涅槃」と呼び、釈尊の死を涅槃に入るというようになった。

小乗教（しょうじょうきょう） Hīnayāna Buddhism hīnayāna とは「劣った乗物」の意味。釈尊以後、その伝統を比較的そこなわずに継承し、複雑で形式的な「法の研究」を主体とした、部派仏教をいう。いわば民衆の間から起った大乘仏教の側からの軽侮した表現。

大乘教（だいじょうきょう） マハーヤーナ、梵：महायान , 英：Mahāyāna Buddhism）は、伝統的に、ユーラシア大陸の中央部から東部にかけて信仰されてきた仏教の分派のひとつ。自身の成仏を求めるにあたって、まず苦の中にある全ての生き物たち（一切衆生）を救いたいという心、つまり大乘の観点で限定された菩提心を起こすことを条件とし、この「利他行」の精神を大乘仏教と部派仏教とを区別する指標とする。大乘（Mahā^{（偉大な）}yāna）という語は、『般若経』で初めて見られ、と音写され、一般に大乘仏教運動は『般若経』を編纂護持する教団が中心となって興起したものと考えられている。

懷疑的（かいぎてき） 物事に対し、信頼を失い寄る辺がなくなること

宇宙神教（うちゅうしんきょう） 仏教は、宇宙の真理、この世界の時間的・空間的存在と真理の関係、諸法と実相を悟って、これを応用する智慧を得ることを目的とされます。あくまでも私達^{（私）}の精神と、私達を取り囲む世界との関係を説き、そして如何に理想に築いていくかを問われる宗教

第5章 歴史上の仏教

三界（さんがい） 欲界・色界・無色界の三つの総称。三有ともいう。凡夫が生死を繰り返しながら輪廻する世界を3つに分けたもの。なお、仏陀はこの三界での輪廻から解脱している。

惟一教（ゆいつきょう） 唯一の、二つとない

吾人（ごじん） わたくし、われわれ。

仏歴（ぶつれき） 仏暦。仏滅紀元暦とも言う。釈迦の入滅の年からかぞえる国と、釈迦が入滅してから1年経ってから数え始める国があり、一年間のズレが生じる。日本で満年齢と数え年年齢があるようなものですね。日本ではそのどちらも使用されているらしいが、全日本仏教会はとりあえず？紀元前543年を仏滅紀元元年（釈迦が入滅してから1年経ってから数え始める方式を採用）としている。釈迦が入滅の年は、学術的には異論があるものの伝承上は紀元前544年。その年を仏暦0年、一年後の紀元前543年を仏暦

一年として計算するとよい。仏暦＝西暦＋543 年英語では仏暦のことを Bhudda Era
といい、仏暦 2600 年を英語で表記するときは B. E. 2600 のように頭文字を用いて表記
する。

如此(かくのごとし)

己来(いらい) こののち。今後。以後。

審(つまびらか) 物事を詳しく調べて明らかにする。はっきりとよしあしを見分ける。

温厚(おんこう) 穏やかで、優しくまじめなさま。

篤実(とくじつ) 情が深く誠実なこと。また、そのさま。

残忍刻剥(ざんにんこくはく) 剥がし刻むなど無慈悲なことを平気ですること。

慈悲(じひ) 仏教用語で、他の生命に対して自他怨親のない平等な気持ちを持つことをいう。一般的な
日本語としては、目下の相手に対する「あわれみ、憐憫」(mercy) の気持ちを表現す
る場合に用いられる。慈悲と二文字並べて使用されるが、本来は慈(いつくしみ)、
悲(あわれみ)と、別々の単語である。「慈悲」は(仏教用語として)一般に、「慈
しみ」と「憐れみ」を区別せずに両方を含んだ意味で使われ、あまり厳密ではない。

遊歴(ゆうれき) 各地をめぐる歩くこと。遍歴。

弘通(ぐずう) 仏語。仏教が広く世に行われること。また、仏教を普及させること。

丘聚(くじゅう) 多くの人が住む集落。

災厲(さいれい) 災害と疫病。

兵戈(へいか) 槍や刀と戈(ほこ)。転じて、武器。戦争。いくさ。

仁(じん) 中国思想における徳の一つ。仁愛。とくに儒家によって強調されており、孔子がその中
心にすえた倫理規定、人間関係の基本。

禮讓(れいじょう) 礼儀正しくへりくだった態度をとること。

哀愍(あいみん) かなしみあわれむこと。あわれみ、情けをかけること。

五惡(ごあく) 仏語。教えに背く五つの悪事。殺生(せっしょう)・偷盜(ちゅうとう)・邪淫
(じゃいん)・妄語(もうご)・飲酒(おんじゅ)。→五戒(ごかい)

五痛(ごつう) 五惡を犯すことにより、現世において受ける華報(けほう)。現世の益たる福德に対
する語

五燒(ごしょう) 五惡をなすことにより、来世において受ける果報。来世の益たる度世・長寿・泥・
に対する語。殺生(せっしょう)・偷盜(ちゅうとう)・邪淫(じゃいん)・妄語(もうご)・
飲酒(おんじゅ)の五惡を犯した者が未来世でうける大火で焼かれるような苦しみ。

五徳（ごとく） 五つの徳目。仁・義・礼・智・信。あるいは温・良・恭・儉・讓。また、五行（ごぎよう）（木・火・土・金・水）の徳など。

固（こ） がっちりかたまって動かない。かたい。かたまる。

白河法皇（しらかわほうおう） 第72代天皇、白河天皇の出家後の呼称。史上初の院政を敷き43年間「治天の君」として最高権力を握り君臨した。

守屋（もりや） 物部守屋氏は有力な軍事氏族である。物部氏は日本に伝来した仏教に対しては強硬な排仏派で、崇仏派の蘇我氏と対立した。ただし、物部氏の本拠の淡川に寺の跡が残し、物部氏そのものは廃仏派ではなかったという説もある。

馬子（うまこ） 蘇我馬子のこと。

黨（とう） 仲間。共通の利害などで結ばれた集団。同じ思想を持つ人々のグループ。同郷の者や血縁者の集まり。仲間を組む。仲間の肩を持つ。

石山軍（いしやまぐん） 元亀元年9月12日（1570年10月11日）から天正8年8月2日（1580年9月10日）にかけて行われた浄土真宗本願寺勢力（一向宗）と織田信長との戦い。本願寺法主の顕如が石山本願寺に籠って戦ったことから石山合戦と言われる。石山戦争ともいう。

防禦（ぼうぎょ） 敵の攻撃などを防ぎ守ること。

法然上人（ほうねんしょうにん） 平安末期・鎌倉前期の僧。浄土宗の開祖。美作国生。諱は源空、法然は房号。のちに黒谷上人ともいわれた。諡号は円光大師・明照大師。比叡山で天台教学を学び、のち黒谷の叡空に師事。善導の『観経疏』に影響を受け、浄土宗開立を決意する。武士・庶民ばかりでなく九条兼実ら貴族も帰依した。讃岐に配流されたが、のち許され帰洛、翌年建暦2年(1212)寂、80才。

日蓮上人（にちれんしょうにん） 鎌倉時代の仏教の僧。鎌倉仏教の十三宗のひとつ日蓮宗（法華宗）の宗祖。

親鸞聖人（しんらんしょうにん） 鎌倉時代前半から中期にかけての日本の僧。浄土真宗の宗祖とされる

マホメット イスラム教の俗称。主にヨーロッパで用いられた。

コーラン イスラム教の聖典。「読誦」の意。約8万語のアラビア語散文および韻文から成り、114のスーラと呼ばれる章に分れる。キリスト教の「主の祈り」に比される冒頭を除き、長い章から順に配列。教徒にとってはアッラーの神の言葉そのもの、永遠なるつくられざる神の意志、天使ガブリエルを通してメジナとメッカでマホメットに啓示されたとされる教義と掟の集大成で、イスラム法の第一の法源。

興起（こうき） 勢いが盛んになること。また、盛んにすること。奮いたつこと

実践躬行（じっせんきょうこう） 理論や信条などを、自身の力で実際に踏み行うこと。▽「躬」は自ら、自分での意。口だけでなく、実際に踏み行うことの大切さをいう語。「躬行実践きゅうこうじっせん」ともいう。

第6章 道德上の仏教(戒律論)

法苑珠林（ほうおんじゅりん） 唐代に道世が著した仏教典籍。全100巻。668年（総章元年）成立。

甘露（かんろ） 中華世界古代の伝承で、天地陰陽の気が調和すると天から降る甘い液体。後世、王者が高徳であると、これに応じて天から降るともされ、また伝説上の異国民族・沃民はこれを飲んでいるとされている

沈溺（ちんでき） 水におぼれること。物事に夢中になって深入りすること。

喩（ゆ） たとえろ。たとえる。他の例を引いて、ある意味・内容をさとらせる。たとえ。

浮囊（ふのう） うきぶくろ。

昏闇（こんあん） くらやみ。

解脱（げだつ） 仏教においては、煩惱による繫縛から解き放たれて、全ての執着を離れることで、迷いの苦悩の世界から悟りの涅槃の世界へと脱出することを指す。

帰趣（きしゅ） 物事が最終的に落ち着くこと。行き着くところ。

尸羅（しら） 仏教の信徒が守らなくてはならない各種の決まりのこと。持戒と訳す、良い性癖の義、行動の規律の意

含識（がんしき） 「〔衆生（しゅじょう）〕の別訳。心識を有する者の意」感情や意識をもつと考えられる生きもの。「人間」を意味することが多い。

三祇（さんぎ） 三阿僧祇劫。→阿僧祇（あそうぎ）

罔（ぼう） 「あみ」の形状を象る、「網」の原字。繊維を寄り合わせた様であり、原初は「岡」（「綱」の原字）との区別は厳密でなかった。

十善（じゅうぜん） 十悪，十悪業道に対する語。10種の悪をなさないこと。十善業道ともいう。

五濁（ごじょく） 仏教の世界観を表わす用語。世界の存続期間中、世の中のけがれゆくさまを5つに分類したもの。まず人間の寿命が短くなり（寿濁），時代的な環境が腐敗し（劫濁），煩惱が盛んとなり（煩惱濁），思想が混乱をきたし（見濁），人間の肉体、精神とも貧相，無気力になる（有情濁）という5つの段階を経て世の中が衰微すると考えられた。

重露（ちょうろ）すでに寒露の節気を過ぎると、長くなった夜に秋の深まりが実感される。杜甫は戦乱を避けて四川省の成都に住んでいたとき、「倦夜」（けだるい夜）という詩を作った。寝間にしのびこむ竹林の涼しさ、庭の隅々まで満ちる月かげ。その中で、「重露 涓

滴（けんてき）を成し、稀星（きせい）乍（たちま）ちに有無」。葉末に重なる露がしずくとなっていたたり月光の中にまばらな星が現われてはまた隠れる。近景と遠景の微細な観察による対句。

大般若（だいはんらにゃ） 大乘仏教の經典。600 卷。唐の玄奘（げんじょう）訳。別々に成立した般若經典類（「仁王經」と「般若心經」を除く）を集大成したもの。空の思想を説き、真実の智慧（般若）を明らかにする。大般若波羅蜜多經。

浄戒（じょうかい） 仏語。仏によって制せられた、清浄で正しい戒。

翅（はね） 昆虫類にそなわる飛翔器官。鳥類のものに対しては羽の字、あるいは翼（つばさ）の語をあてる。普通は中・後胸に各 1 対あり、中胸のものを前翅、後胸のものを後翅という。翅の基部下面は背板に下面は側板に連結し、翼筋の収縮運動により振動し飛翔する。

妙果（みょうか） 仏語。善根功德によって得られるすぐれた果報。仏果。

破戒無戒（はかいむかい）

慨嘆（がいたん） うれいなげくこと。憤りなげくこと。

義疏（ぎしよ） 經典の意味・内容を解説した書。ぎそ。「法華義疏」「三經義疏」

開遮（かいしゃ） 仏教用語。開は許可、遮は禁止で、許すことと禁じること。嘘を言うか人を殺すかの二つしか道がない場合、嘘は許されるが、殺人は許されないように、状況によって、してよいこと（開）と悪いこと（遮）のあること。

遊獵（ゆうりょう） 獵をして楽しむこと。

吏黨（りとう） 明治時代中期の初期帝国議會における政府寄りの姿勢を示した政党のこと。

廃娼論（はいしょうろん） 女性の人権擁護の立場から、公娼制度を廃止しようとする社会運動。日本では明治以後、矯風会・救世軍などが積極的に展開、昭和 31 年（1956）売春防止法が制定された。

仮令（けりょう） 《たとえば、たといの意の漢語「仮令」を音読みにした語》

賤業（せんぎょう） いやしい職業。

鰥寡（かんか） 妻を失った男と、夫を失った女。

蝗虫（こうちゅう） イナゴの漢名。

道俗（どうぞく） 仏道に入っている人と俗世間の人。僧侶と俗人。僧俗。

易行他力（いぎゅうたりき） 仏語。だれにでもたやすく行える修行。

真俗二諦（しんぞくにたい） 真俗二諦という主張は仏教が世間の人々を教え導くための方法とし、また、その教えを理解せしめる仕方として説かれたものであり、仏教の現実への対処の

仕方という点で特色のある教えの一つである。真俗二諦とは真諦と俗諦との二つをいう。

王法為本（おうほういほん） 仏教のうちでは、在家主義の真宗において仏法王法両輪論がうけつがれた。存覚は「破邪顕正抄」で「仏法王法は一双なり」とのべているが、本願寺8世蓮如に至って、王法為本説として強調された。御文（おふみ）に「まづ王法をもて本とし仁義をもて先として、世間通途の義に順じて、当流安心をば内心にふかくたくはへて」とある。

宗旨（しゅうし） 宗門の信仰内容の主旨として説くところ。ある宗教の教えの中心教義。「一を説く」一つの宗教の中の流派。宗門。宗派。自分の主義・主張・趣味。好みのやり方や考え方。「一に合わない」

肉食妻帯（にくじきさいたい） 僧侶が肉を食べ、妻をめとること。▽僧侶は殺生をしてはならず、禁欲生活を送るべきものであるという考え方から、かつて浄土真宗以外の宗派ではこれを禁じていた。「食」は「しょく」とも読む。

第7章 比較仏教学

ブラバッキー

スエデンボルグ スウェーデン王国出身の科学者・神学者・神秘主義思想家。スエデンボルグとも。しかし多くはスウェーデンボルグと表記される。生きながら霊界を見て来たと言う霊的体験に基づく大量の著述で知られ、その多くが大英博物館に保管されている。スヴェーデンボリは貴族に叙された後の名。

博言学（はくげんがく） 言語学の旧称。加藤弘之による訳語。

第8章 散斯克(梵学)

千無一失（せんむいっしつ） 千人の中に一人の例外もなく往生する。

拘泥（こうでい） こたわること。小さい事に執着して融通がきかないこと。「勝敗に一しない」

阿耨多羅（あのくたら） 最高の正しい悟りの意で、仏陀の悟りを指す。無上正等正覚。無上正遍知。

三藐三菩提（さんみゃくさんぼだい） 等正覚・正遍智と訳す）阿耨多羅あのくたら 三藐三菩提の略。仏のさとり。完全なさとり。

アミターユス 阿弥陀如来（あみだによらい）は、大乘仏教の如来の一つである。梵名は「アミターバ」（अमिताभ, Amitābha）、あるいは「アミターユス」（अमितायुस्, Amitāyus）といい、それを「阿弥陀」と音写する。「阿弥陀仏」ともいい、また略して「弥陀仏」ともいう。

マックスミュラー ドイツ・デュッセルドルフに生まれ、イギリスに帰化したドイツのサンスクリット文献学者、東洋学者、比較言語学者、比較神話学者。

笠原研寿(かさはらけんじゅ) 1852－1883 明治時代の仏教学者。嘉永(かえい)5年5月5日真宗大谷派の越中(富山県)恵林寺に生まれ、金沢で石川舜台の慎憲塾にまなぶ。明治9年本山留学生としてイギリスに留学、オックスフォード大でサンスクリットをまなんで15年帰国。浅草大谷教校でサンスクリットなどをおしえた。明治16年7月16日死去。32歳。字(あざな)は僧墨。号は梵行院。

第9章 仏教国の探検

コロンブス [生]1451? ジェノバ[没]1506.5.20. バリャドリドイタリア生れの航海者。新大陸の発見者として知られる。スペイン名クリストバル・コロン Cristobal Colón。署名はコロボ、コロモ、コロム、コロンなどと次々に変えたが、コロンブスという綴りはラテン語で書くときも使用していない。

堂班位階(ドウハンカイイ) 衣や袈裟の色で僧侶の階層を一目で識別出来るようにしたもの。

瑣細(ささい) とるにたりないさま。わずかなさま。

齷(せく) **齷齪**(あくせく)。ゆとりのないさま。落ち着きのないさま。

天竺(てんじく) インドの旧名。ただし、現在のインドと正確に一致するわけではない。

法輪(ほうりん) 仏教の教義、特に釈迦が説いた四諦・八正道の別称。

法顯三蔵(ほっけんさんぞう) 中国東晋時代の僧。姓は龔、平陽郡武陽縣(今の山西省)の人。

鑑真和上(がんじんわじょう) 奈良時代の帰化僧。日本における律宗の開祖。俗姓は淳于。

安逸眠夢(あんいつみんむ) 何もせずぶらぶら過ごし、寝てくらす。

鏤(ちりばめる) 比喩的に、文章のところどころに美しい言葉などを交える。

爛々(らんらん) 光の鋭く輝くさま。

眩惑(げんわく) 目がくらんで正しい判断ができなくなる事。また、目をくらまして、まどわすこと。

擲ち(なげうち) なげつける。なげうつ。

星学曆法(せいがくれきほう) 天文学の旧称。

崑崙山(こんろんざん) 中国、古代神話上の山。昆侖、こん嶺とも書く。靈魂の山の意。中国の古代信仰では、神靈は聖山によって天にのぼると信じられたが、崑崙山は最も神聖な山で、大地の両極にあるとされた。戦国時代には、ここが天帝の地上の都で、諸神

が集り、四季の循環を促す「気」が吹渡り、また黄河がここに源を発するとされていた。

バミル高原 西アジア最東端のヒンドークシュ山脈の付近にある高原である。「パミール」は、ペルシャ語で「世界の屋根」を意味するといわれる。中国では“葱嶺”（そうれい）とも呼ばれていた。

第 10 章 仏国の聯合

羅馬教（ろーまきょう） カトリック教会（カトリックきょうかい、ラテン語: Ecclesia Catholica）は、ローマ教皇を中心として全世界に 12 億人以上の信徒を有するキリスト教最大の教派。その中心をローマの司教座に置くことからローマ教会、ローマ・カトリック教会とも呼ばれる。

加特力教（かとりつくきょう） カトリック教会。初代キリスト教会の正統を継ぐとされている教会。カソリック。カトリック教会の信徒。地上におけるキリストの代理者としてのローマ教皇を首長とする。カソリック。

猶太教（ゆだやきょう） ユダヤ教。

希臘教（ぎりしゃきょう） ギリシャ教。

婆羅門教（ばらもんきょう） 古代インドにおいてバラモン階級を中心に形成され発展した民族宗教。四ベーダを根本聖典とする。バラモン至上主義、祭祀（さいし）主義を顕著な特徴とする

エシース教 エジプト神話の女神。イシスはギリシア語であり、古代エジプトではアセトと呼ばれた。

ヘリオポリス神話ではゲブとヌトの子供で、オシリスの妹であり妻、セト、ネフティスの姉でもあり九柱神の一角を担う（セトの妹とされることもある）。またホルスの母。別の神話によるとラーの娘。

バガン教 バガン王朝の国教は上座部仏教である。アノーヤターはタトゥンから招聘した高僧シン・アラハンによって上座部仏教に改宗するとともに、民衆に影響力を持つアリー僧を強制的に還俗させた。アノーヤターがタトゥンに進攻した理由について史料は経典と仏舍利を入手するためと伝えるが^[48]、研究者の中には宗教的理由に疑問を呈する意見もある[〔]

回々教（ふいふいきょう） イスラム教のこと。

偶像教（ぐぞうきょう） 木・石・土・金属（などの具体的なモノ）で作った像^[1]。神や仏などの存在をかたどって造られた像で、かつ崇拝の対象となっているようなもののこと

錫蘭（せいろん） インド半島の南東にある島。紀元前 3 世紀に仏教伝来後、南方仏教の中心地。16 世紀以降ポルトガル・オランダの進出を経て、1802 年以来イギリス直轄植民地。

1948年英国から独立。72年スリランカと改称して、共和国となる。中国古名、獅子（師子）国。→スリランカ。

緬甸(びるま) 東南アジア大陸部西部の国。ミャンマー連邦の旧称。

暹羅(しゃむ) タイ国の旧称。→シャムロ

安南(あんなん) 中国人・フランス人などがかつてベトナムを呼んだ称。また、ベトナム人がこの地に建てた国家をもいう。唐がこの地に設けた安南都護府に由来。狭義には、北のトンキン、南のコーチシナとともに旧仏領インドシナの一行政区画の称。

気脉(きみゃく) 勘定や考え方などの人と人の間の気持ちの通じ合い。ひそかに連絡を取り合って意志の疎通を図ること。わたりをつけること。気脈。

オルコット ヘンリー・スティール・オルコット (*Henry Steel Olcott*, 1832年8月2日 - 1907年2月14日) は、アメリカ生まれ。神智学協会の創始者の一人で、最初の会長。プロテスタント仏教の始まりに影響を与えた。仏教との公式の対話を行った最初のヨーロッパ人として有名である

第11章 仏蹟回復

シリア シリア・アラブ共和国（シリア・アラブきょうわこく）、通称シリアは、中東・西アジアの共和制国家。北にトルコ、東にイラク、南にヨルダン、西にレバノン、南西にイスラエルと国境を接し、北西は東地中海に面する。首都はダマスカス。「シリア」という言葉は、国境を持つ国家ではなく、周辺のレバノンやパレスチナを含めた地域（歴史的シリア、大シリア、ローマ帝国のシリア属州）を指すこともある。

逆待(ぎゃくたい)

激昂(げきこう) 精信の働きが激しく高ぶる。

聊か(いささか) わずかばかり。

楞伽山(りょうがさん) 楞伽は梵語ランカー(Laṅkā)の音写。釈尊が『楞伽經』を説かれた場所。

鹿苑(ろくおん) 金閣寺の正式名称。臨済宗鹿苑寺。

法輪(ほうりん) (仏の教化が衆生の悪をくだき、展転して他に伝わるのを、車輪にたとえていう語) 仏の教え。仏法。

靈鷲山(りょうぜんせん) インドのビハール州のほぼ中央に位置する山。釈迦仏が無量寿経や法華経を説いたとされる山として知られる。

ダンマパーラ氏 アナガーリカ・ダルマパーラ (1864～1933) は南アジアの仏教国スリランカ（旧セイロン）に生まれ、イギリスの植民地支配に喘ぐ祖国で、仏教の復興を図った先駆者、建国の父である。

輿論(よろん) 世間一般の人が唱える論。社会大衆に共通な意見。

頑眠(がんみん) かたくなで、事理ををわきまえぬ人民。

第 12 章 総会議所

印度佛陀伽耶(インドブッタガヤ) 釈迦(しゃか) が悟りを開き、ブッダ(仏陀: 悟りを開いた人) となった成道(じょうどう。悟りを開くこと) の地、ブッダガヤ。

第 13 章 巡礼

メッカ サウジ - アラビア西部、ヘジャズ地方の都市。ムハンマドの出生地で、カーバ神殿があり、イスラム第一の聖地として多数の巡礼者が訪れる。人口 95 万 2 千 (1992)。アラビア語名マッカ。転じて、ある物事の発祥地や中心地。また、あこがれの土地。

草庵(そうあん) 草ぶきのいおり。粗末な家。くさのいおり。

咽(いん) のど。[音] イン (慣) エン (呉) (漢) エツ (漢) [訓] のど むせぶ〈イン〉のど。「咽喉(いんこう)」「エン」「嚥(えん)」と通用) 飲み込む。「咽下(えんか・えんげ)」「エツ」 むせぶ。「嗚咽(おえつ)」

濫觴(らんしょう) 《揚子江のような大河も源は觴(さかずき)を濫(うか)べるほどの細流にすぎないという「荀子」子道にみえる孔子の言葉から》物事の起こり。始まり。起源。「

懐旧(きゅうかい) 昔のことを、なつかしく思い出すこと。懐古。

伝教大師(でんぎょうだいし) 最澄(さいちょう) は、平安時代の僧。日本の天台宗の開祖である。近江国(滋賀県) 滋賀郡古市郷(現在の天津市) に生れ、俗名は三津首広野(みつのおびとひろの)。生年に関しては天平神護 2 年 (766 年) 説も存在する。

日蓮上人(にちれんしょうにん) 貞応元年 (1222 年) 2 月 16 日 - 弘安 5 年 (1282 年) 10 月 13 日) は、鎌倉時代の仏教の僧。鎌倉仏教の十三宗のひとつ日蓮宗(法華宗) の宗祖。

天台山(てんだいさん) 中国浙江省東部の天台県の北方 2km にある霊山である。最高峰は華頂峰で標高 1,138m。

五台山(ごだいさん) 中国山西省東北部の五台县にある古くからの霊山である。標高 3,058m。仏教では、文殊菩薩の聖地として、古くから信仰を集めている。旧字表記では、五臺山。別名は、清涼山。2009 年にユネスコの世界遺産(文化遺産) に登録された。

護法(ごほう) 仏法に帰依して三宝を守護する神霊・鬼神の類を意味するが、狭義では、密教の奥義をきわめた高僧や修験道の行者・山伏たちの使役する神霊・鬼神を意味する。

巡遊(じゅんゆう) 各地を巡り歩くこと。

塵埃(じんあい) ちりとほこり。「一にまみれる」世の中の、もろもろの汚れたもの。俗世間の事柄。

第 14 章 海外宣教

神智学会(しんちがっかい) the Theosophical Society) は、ヘンリー・ステイール・オルコット、ヘレナ・P・ブラヴァツキー、ウィリアム・クアン・ジャッジ (英語版) らが 1875 年にアメリカのニューヨークで結成した神秘思想団体である。神智学を振興した。神智協会とも。

海外仏教事情(かいがいぶっきょうじじょう) 明治 20 年代初頭、西本願寺の普通教校の若き仏教者たちは、海外へと眼を向けた。欧米での仏教への関心の高まりが彼らの背中を押し、海外宣教会が組織され、同会の和文機関誌『海外佛教事情』と英仏文機関誌『THE BIJOU OF ASIA (亜細亜の宝珠)』は、そのことを伝える貴重な資料である。

浦鹽斯徳(ウラジオストク) ロシアの極東部に位置する都市。

布哇(ハワイ) アメリカ合衆国、太平洋のほぼ中央部にあるハワイ諸島から成る州。かつてはポリネシア人の居住地。1778 年クックが上陸。1795 年カメハメハ王朝が統一国家を樹立したが、1898 年アメリカが併合。1959 年五〇番目の州となった。主な島はハワイ島・マウイ島・モロカイ島・オアフ島など。世界的な観光地。日系人も多数居住する。サトウキビ・パイナップルの産が多い。州都はオアフ島のホノルル。

第 15 章 仏教学校

屢々(しばしば) 時々、よく、度々、しょっちゅう、などという意味の表現。「数々(しばしば)」とも書く。

渴望(カツボウ) のどが渴いたとき水を欲するように、心から望むこと。切望。熱望。

大旱(たいかん) ひどいひでり。おおひでり。

雲霓(うんげい) 雲と虹。または、虹。

啻ならず(ただ) 取りたてて言うこともないさま。

呂宋(るそん) ルソン島 (ルソンとう、呂宋島、フィリピン語 : Luzon) は、フィリピン諸島のうちで最も面積の大きな島。面積はおよそ 10 万 4688km²。フィリピンの総面積の 35% を占め、世界で 17 番目に大きな島であり、世界で 4 番目に人口が多い島でもある。首都マニラやフィリピンで最も人口が多いケソン、およびそれらを包括する首都圏メトロ・マニラが同島に所在しており、フィリピンの政治・経済で特に重要な位置を占めている。

欧羅巴(よーろっぱ) 六大州の一。ユーラシア大陸西部および付近の島々からなる。ふつう、ウラル山脈以西、カフカス山脈以北、ボスポラス海峡以西をさす。欧州。エウロパ。

英(いぎりす) 英吉利の略。イギリスやイギリス、特にイングランドに関する事柄を指す。

獨(どいつ) ドイツ連邦共和国、通称ドイツは、ヨーロッパ中西部における議会制共和国である。

- 佛(ふらんす)** フランス共和国。通称、フランス。また、漢字による当て字で、仏蘭西、法蘭西などと表記することもあり、仏と略されることが多い。アメリカに渡るのを「渡米」と呼ぶのに対して、フランスに渡ることを「渡仏」と呼ぶ。
- 魯(ろしあ)** 日本では江戸時代から明治時代にかけて、ロシアの漢字表記は「露西亜」「魯西亜」「俄羅斯」「峩羅斯」など、いくつか見られました。なかでも多く使われていたのが「魯西亜」で、江戸時代末に訪れたロシア使節に対し、江戸幕府はこの呼称を用いました。それで 1855 年の条約では「魯」の字が当てられたわけです。それが 1875 年の樺太千島交換条約の条文では「魯」に代わって「露」が使用され、以後「露」表記が主流になっていきます。
- 澳(おーすとらりあ)** 「澳太利(オーストリア)」、「澳州(オウシュウ)」。
- 伊(いたりあ)** 伊太利(イタリア)。
- 瑞西(すいす)** ヨーロッパ中部にある連邦共和国。首都ベルン。国土の約 6 割をアルプスが占め、観光地が多い。武装永世中立国。牧畜・機械工業・時計製造・国際金融業が盛ん。ドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンス語の 4 か国語が公用語。「スイス」はフランス語名で、ドイツ語名シュワイツ、イタリア語名ズビッツェラ、英語名スイツランド。共通国名として切手などの表示には古代名ヘルベチアと称する。人口 762 万 (2010)。
- 西班牙(すぺいん)** ヨーロッパ南西部、イベリア半島の大半を占める立憲君主国。首都マドリード。イスラム教徒の支配ののち 15 世紀に統一王国をなし、16、7 世紀には中南米を主として全世界に広大な植民地を領有。1588 年無敵艦隊が敗れ、制海権を英国に譲り、衰退。1931 年共和国樹立後、内乱を経て 1939 年からフランコの独裁政治が続いたが、1975 年その死により王政に復した。人口 4651 万 (2010)。
- 葡萄牙(ぼるとがる)** ヨーロッパ南西部、イベリア半島西部にある共和国。首都リスボン。前 2 世紀、ローマの属州となり、ルシタニアと呼ばれた。1143 年に王国を建設、15、6 世紀には東洋貿易で栄え、ブラジル・アフリカなどに多くの植民地を獲得。日本とは室町末期から江戸初期にかけて通交があり、多くの文化的影響を与えた。1910 年革命によって共和国となったが、1974 年までは独裁体制が続いた。人口 1074 万 (2010)。
- 和蘭(おらんだ)** ヨーロッパ北西部の立憲王国。首都はアムステルダムだが、王室・政府機関などはハーグにある。北海沿岸の低地にあり、国土の 4 分の 1 は海面より低い。ハプスブルク家領・スペイン領を経て、1581 年独立を宣言。17 世紀にはヨーロッパ一の海外貿易国として発展し、1609 年以来日本とも交易。農牧畜業、チューリップなどの園芸、金属などの工業が盛ん。正式名称はネーデルラント王国。人口 1678 万 (2010)。
- 丁抹(でんまーく)** 北ヨーロッパ、ユトランド半島とシェラン島などの島々からなる立憲君主国。世界有数の酪農国。社会保障制度が発達し生活水準が高い。造船・精密機械工業も盛ん。住民はゲルマン系でプロテスタントが多い。首都コペンハーゲン。面積 4 万 3 千平方キロメートル。海外領にグリーンランド・フェロー諸島がある。人口 540 万 (2005)。正称、デンマーク王国。

白耳義（べるぎー） ヨーロッパ西部、北海に臨む立憲君主国。金属・機械・化学・食品加工などの工業が発達。酪農も盛ん。住民はオランダ語を使用する北部のフラマン系と、フランス語を使用する南部のワロン系から成る。カトリック教徒が多い。1830年オランダから独立。首都ブリュッセル。面積3万1千平方キロメートル。人口1040万（2005）。正称、ベルギー王国。

瑞典（すえーでん） 北ヨーロッパのスカンディナヴィア半島に位置する立憲君主制国家。西にノルウェー、北東にフィンランド、南西にカテガット海峡を挟んでデンマーク、東から南にはバルト海が存在する。首都はストックホルム。スウェーデン語ではSverige（スヴェーリエ）といい、スヴェーア族の国を意味する。

諾威（のるうえー）（Norway）ヨーロッパ北部、スカンジナビア半島西部を占める立憲君主国。首都オスロ。森林が多く、海岸はフィヨルドが発達し、パルプ・機械工業や水産業・海運業が盛ん。9世紀末にノルマン人により国家を形成。1397年にデンマークと、1815年にはスウェーデンと連合王国を形成、1905年分離・独立。バイキングの故地。ノルウェー語ではノルゲ（Norge）という。人口468万（2010）。

土耳其（とるこ） 小アジアとバルカン半島の東端にまたがる共和国。首都アンカラ。14世紀以降オスマン帝国として栄え、ヨーロッパ東部・アジア西部・アフリカ北部にまたがる大帝國となったが、17世紀末から衰退し、第一次大戦の敗戦で多くの領土を失った。1923年、ケマル＝アタチュルクらによる革命を経て共和国となり、首都をイスタンブールから移して近代化を推進。面積78万平方キロメートル。人口7780万（2010）。

悉く（ことごと） 問題にしているものの全部。残らず。すべて。みな。

漸（ようやく） 物事が少しずつ進むこと。

第16章 仏典翻訳

ブヂスト 英文雑誌「ブヂスト」のこと。

ダンマパーラ アナガーリカ・ダルマパーラ（1864～1933）は南アジアの仏教国スリランカ（旧セイロン）に生まれ、イギリスの植民地支配に喘ぐ祖国で、仏教の復興を図った先駆者、建国の父である。シンハラ人エリート家系に生まれたダルマパーラは、幼少期にブラヴァッキー・オルコットの神智学協会に心酔し、神智学を媒介として仏教復興に生涯を捧げる決意をするに至った。

第17章 本山政論（第一）

吏黨（りとう） 明治時代中期の初期帝国議会における政府寄りの姿勢を示した政党のこと。ただし、本来は自由民権運動を継承する民党側からの蔑称であり、政府・マスコミおよび当事者達は温和派（おんわは）と呼称していた。

民黨(みんとう) 明治時代の自由民権運動を推進してきた自由党・立憲改進黨などの民権派各党の総称。主に帝国議会開設から日清戦争にかけて使われてきたが、その後も「民衆代表政党」の意味を込めて大正期まで使われてきた。

ピューリタン イングランド国教会の改革を唱えたキリスト教のプロテスタント（カルヴァン派）の大きなグループ。市民革命の担い手となった。日本語では清教徒と訳される。

プロテスタント 宗教改革運動を始めとして、カトリック教会から分離し、特に福音主義を理念とするキリスト教諸教派を指す。日本ではカトリック教会に対し、「新教」ともいう。

妄想(もうそう) 非合理的かつ訂正不能な思いこみのこと。

国粹(こくすい) その国の国民性または国土の特徴となる長所や美点。

中西牛郎(なかにしうしお) 1859－1930 明治-昭和時代前期の宗教思想家。安政6年1月18日生まれ。同志社にまなび、明治14年神水(くわみず)義塾をひらく。米国に留学後、本願寺文学寮教頭となる。「新仏教論」で仏教改革を説き、雑誌「経世博義」を刊行し国粹主義を主張。天理教と神道扶桑教の教典をまとめた。昭和5年10月18日死去。72歳。肥後(熊本県)出身。号は蘇山。著作はほかに「宗教革命論」など。

光華(こうか) 美しく光ること。かがやき。光輝。

旌旗(せいき) はた。のぼり。

ガリレオ天動説 イタリアの物理学者、天文学者、哲学者。

ルーテル ルーテル教会（ルーテルきょうかい、英: Lutheran Church、Lutheranism）は、マルティン・ルターによりドイツに始まる、キリスト教の教派または教団。ルター派（ルターは）とも呼ばれる。プロテスタントの一つであり、全世界に推定8260万人の信徒が存在する。発祥の地ドイツを始め、北欧諸国では国民の大半がルター派であり、そこから移民が渡った先のアメリカ合衆国、カナダ、ブラジル等の南アメリカ各国でも信徒数が多い。

參與(さんよ) 慶応3年、王政復古により設けられた三職のひとつ。事務職。

顕揚(けんよう) 世間に威光や評判などを広め高めること。

第18章 本山政論(第二)

崩芽(ぼえが) 発芽・兆し。

淘汰(とうた) 不適当なものや不必要なものを除き、良いものを残すこと。自然の中で環境に適した生物が残り、適しないものは滅びる現象。

外道(げどう) 仏教用語で、悟りを得る内道（仏の教え）に対する言葉である。転じて、道に外れた人全般も意味するようになった。インドにおける本来の意味は渡し場・沐浴場・霊場を作る人のことで、一派の教祖を意味する。

勇憤(ゆうふん) 大いに怒って勇み立つこと。

濫許(らんきょ) 無秩序に許すこと。

羅典(らてん) ラテン語・ラテン民族などの略、羅甸とも書く。

『世界に於ける仏教徒』難解文字簡易解説

能海寛が世界平和を願って、釈迦直伝の經典を英訳して、世界共通の英訳經典を世に発表したいと身命を賭して、チベット巡礼の旅に赴き 33 歳で不帰の人となりました。

明治 22 年 10 月 14 日、京都普通教校・文学寮で E.C.S(英文会)を 47 人で興し、仏教を英文で発信するため、毎週日曜日に、『New BUDDHIST』(新仏教徒)を発刊・主宰した。能海の新仏教徒運動は、この時に始まった。

明治 22 年末に、能海は、友人らと上京した。明治 23 年、芝区三田豊岡町龍源寺越溪宗逸方へ下宿中の能海の元へ古河勇が加わり 2 月から 4 か月間、同居・自炊生活を行い、「木石書院」と名付け、経緯同盟会を起した。

能海は、6 月 1 日には、再び、三田寺町の西蓮寺(白山謙致)に転居した。10 月 15 日、予てより、働きかけていた、慶応義塾において「土曜会」を組織した。会員数約 30 名、各宗派の僧侶が集まり、運動、スピーチ、作文等を行うサークルが誕生した。能海は、檀家一統からの学資金により、上京して勉学に励んでいたが、普通学を学ぶことは、檀家として許されなかった。義父の謙信師からの嘆願で、23 年 12 月をもって、慶応義塾を退学して、哲学館へ転学することとなった。

明治 25 年 3 月 18 日以降、英文会の発展を図る考えで、来る 4 月 8 日を以て「新仏教徒」、『英文雑誌』が誕生できるよう能海は、宣教会、文学寮、内学院大学寮、高中、尋中、南條文雄、井上円了、友人などへ「英文会」の目指す新仏教徒運動の件で書簡を送付・面談して働きかけていた。同 3 月 20 日には、『二河白道』を英文訳して、三省堂へ持ち込むも断られ落胆する。そして、4 月 8 日、「釈尊降誕会」が開催された。これらの地道な活動が降誕会、経緯会の誕生につながったのである。

哲学館在学中の明治 26 年 2 月 4 日から 4 月 29 日までの間に記述された『純正哲学自解』は、『世界に於ける仏教徒』発刊の半年前に記述したもので、宗教を哲学の視点で記述したものであった。能海は、2 月 25 日、記述の中で、「予の一生の目的は、『宗教学』の完成にあり。」と生涯の目的を明言している。

明治 21 年 10 月からスタートした、能海の新仏教徒運動は、世界平和を見据えての行動であった。能海寛の推し進めてきた『宗教学』の集大成は、あまりにも早すぎる他界によって完成を見ることができなかった。

『世界に於ける仏教徒』は、能海の宗教観を纏めた格調高い論文である。しかし、難解な文字がありますので、簡易な解説を付して能海の伝えようとした宗教観を読み解いていただくことを願って、この「難解文字簡易解説」を発信するものです。(文責；隅田)

2017.8.12

能海寛研究会